

平成30年度「地域づくり表彰」事例の概要

受賞名 受賞団体	活動の概要	問合せ先
<p>国土交通大臣賞 能登井事業協同組合 (石川県珠洲市)</p>	<p>平成19年3月に能登半島地震に見舞われたことから、震災からの復興及び過疎化・高齢化が進む奥能登地域の活性化を目的として、同年5月に奥能登2市2町(輪島市・珠洲市・穴水町・能登町)や県、奥能登の民間事業者や地域づくり団体等のメンバーで構成される「奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会」が発足された。</p> <p>この推進協議会では、奥能登の「食」、「風景」、「体験」を軸とした取組を検討し、その中から「食」の分野で奥能登の豊かな食文化を活用した新たな地域ブランドの確立し、産業振興や観光振興を図ることを目的として、「能登井」を開発した。</p> <p>「能登井」とは、能登産の水・米(コシヒカリ)、肉・野菜等の食材を活用し、井・箸は輪島塗等の能登産の食器を使用、奥能登の地域内で調理を行うといった基準を満たすものであり、著は飲食客へプレゼントもしている。</p> <p>平成22年に「能登井」の普及のために、地元の事業者による能登井事業協同組合を設立し、「能登井」の商標登録を行った。さらに、団体ツアー向けの「能登井弁当」の開発、コンビニ等と連携した商品開発等による販促活動、地域起こし団体と連携した「全国井サミット」の地元開催などの普及活動の取組を行ってきた。また、継続的な取組を続けるために、負担金、協賛金等による自主財源の確保を図ってきた。</p> <p>これらの活動により、「能登井」の販売売上は取組開始当初に比べて2倍に増加し、観光振興に大きく貢献した。</p> <p>当組合は、地域内の食材や地元で継承される伝統工芸を活用して開発した「能登井」を軸として、様々な事業者と連携して継続的に取組を進め、観光面・商業面で大きな成果を上げた点が高く評価された。</p>	<p>珠洲市 観光交流課 0768-82-7776</p>  <p>奥能登の豊かな食文化を活かした「能登井」</p>
<p>全国地域づくり協議会 会長賞 特定非営利活動法人 ハッピーロードネット (福島県広野町)</p>	<p>当団体は、福島県広野町の「交通安全母の会」を母体とし、通学路にガードパイプ設置を要望したことから始まり、子供たちが将来楽しく住みやすい地域社会を実現することを目指して、地域住民を主体となり、特定非営利活動法人ハッピーロードネットを設立した。</p> <p>主な活動としては、地域を担う人材育成を目的として中学・高校生たちが地域のまちづくりについて考えるフォーラム(ハイスクールサミット)の開催、地元高校生等のボランティアによる国道6号の清掃活動(みんなでやっぺ!!きれいな6国)や東日本大震災及び原発事故の復興シンボルとなる桜の植樹活動(ふくしま浜街道・さくらプロジェクト)を行ってきた。</p> <p>ハイスクールサミットは、平成18年から始まり14回開催され、高校生の発案により始まった国道6号の清掃活動も青年会議所や地元企業などのボランティア参加により年々活動の輪が広がっている。また、ボランティア清掃やさくらプロジェクトの継続した活動により、ボランティアの数が年々増加し、行政と地域が一体となった活動が着実に浸透してきている。</p>	<p>広野町 復興企画課 0240-27-1251</p>  <p>「ふくしま浜街道・さくらプロジェクト」で植栽された桜</p>
<p>全国地域づくり協議会 会長賞 鯖江市役所JK課 (福井県鯖江市)</p>	<p>鯖江市は、「市民主役・市民協働」のまちづくりを進めてきたことから、女性の高校卒業後の転出や地域離れは顕著になっていたことから、若者や女性が日常生活の中で気軽に地域活動に参加し、自分ごととして楽しみ続けてもらうための実験的プロジェクトとして、2014年4月に「鯖江市役所JK課」を立ち上げた。</p> <p>大人が常識や型を押し付けずに自由な環境下で女子高校生自らが企画し、大人を巻き込みながら地域活動を実践することを通じ、若者や女性が進んで地域活動に参加する新たなモデルの構築を目指した。</p> <p>JK課の企画により、鯖江市の地場産品であるメガネフレームのデザイン、伝統菜味である「山うい」を使用したおにぎりやサンドイッチの開発、市内のパティシエグループとの共同開発によるオリジナルスイーツが新たに開発・販売されるなど、発足以来、年間80日、20回以上の事業実施という実績をあげており、地域の産業振興やまちづくりの活性化に寄与するとともに、プロジェクトの趣旨に賛同する全国の自治体で横展開が始まっている。</p>	<p>鯖江市 総務部市民まちづくり課 0778-53-2215</p>  <p>JK課が地場産業のPRを行う様子</p>
<p>全国地域づくり協議会 会長賞 一般社団法人そらの郷 (徳島県三好市)</p>	<p>徳島県西部圏域「にし阿波」地域の人口減少、高齢化の解決のため、交流人口拡大による観光地域づくりを目指し、一般社団法人そらの郷を創設した。</p> <p>本団体は、にし阿波地域の急峻な山村地域独自の人々の暮らし、歴史や文化とその自然資産を活用し、地域の人々とふれあうことを通じ、リピーターとして繰り返し訪れてもらうことにより、「住んでよし、訪れてよし」の体験型の観光地域づくりを推進し、景観の保全と、地域の活性化を図ってきた。</p> <p>取組の推進にあたっては、観光地域づくりマネージャーを中心とした官民の実務者で構成する「にし阿波観光地域づくり戦略会議(マネジメント会議)」を設置するなど、効果的な資源及び人材発掘の観点から、官民が連携し、マーケティング分析、ブランド化戦略、滞在プログラム等の検討を行ってきた。</p> <p>これらの誘客戦略により、外国人宿泊客数・団体受入数が顕著に増加し、地域経済の活性化に貢献するとともに、国内外から注目を集め、今後も旅行者増加が期待される。</p>	<p>徳島県 西部総合県民局観光振興部 0883-76-0374</p>  <p>外国人観光客へのガイド</p>

<p>日本政策投資銀行賞 株式会社キャッセン 大船渡 (岩手県大船渡市)</p>	<p>東日本大震災により、地区の大半が損壊・流失した大船渡市の中心市街地「大船渡地区」の震災からの復興、さらに震災前よりも活気にあふれる持続可能な市街地の形成を目指し、「株式会社キャッセン大船渡」が設立された。 持続可能な市街地の形成のために、キャッセン大船渡を中心として官民(大船渡市と事業者・商店街・市民など)が連携し、社会基盤と市民の生活の場の再建およびコミュニティの再生を図った。 ハード・ソフト両面のまちづくりを実践し、エリア内では地元の実業や大船渡市の市の花である「ツバキ」、地場の水産資源などを活用した地場産業の進出や販路の拡大にも取り組むとともに、エリアマネジメント等のノウハウを活かした長期的・継続的に地域活性化のための事業を行う仕組みを官民連携で開発した。 取り組みを通して、商店街では当初目標売上を上回る実績を上げ、震災から時間が経過するとともに岩手県沿岸部の情報がメディアに取り上げられる機会が減っている中で、新しい地域づくりの取組として露出する機会も多くなった。</p>	 <p>キャッセン大船渡</p>	<p>大船渡市 災害復興局 大船渡駅周辺整備 室 0192-27-3111</p>
<p>地域づくり表彰審査会特別賞 まっかり温泉スリッパ 卓球大会実行委員会 (北海道真狩村)</p>	<p>冬にまっかり温泉を訪れる観光客が減少傾向にあり、真狩村商工会がまっかり温泉の指定管理者となったことを機に、冬季の観光客減少の解決策について検討が始まった。 まっかり温泉という地域資源を活かして、温泉卓球とスリッパを結び付けるというユニークな発想から、「スリッパ卓球大会」を考案し、スリッパ卓球大会実行委員会が設立された。 温泉だけではなく、生産量日本一のゆり根や美味しい野菜、ハーフ豚などを特産品を地元企業から協賛品として集め賞品とし、地域資源として活用した。また、他地域でも行われるスリッパ卓球大会にも参加し、活動を全国各地まで広げる取組も行ってきた。 これまで12回の大会を開催し、人口2,000人の村に延べ1,500名以上の方が参加し交流人口の拡大を見せ、現在は全国7温泉地により全国ご当地温泉卓球協議会を組織し、持ち回りでご当地温泉卓球大会全国大会を開催して活動の幅を広げている。</p>	 <p>スリッパ卓球大会</p>	<p>真狩村 総務企画課 0136-45-3613</p>
<p>地域づくり表彰審査会特別賞 矢掛の宿場まつり大行列 実行委員会 (岡山県矢掛町)</p>	<p>矢掛町を襲った昭和51年の台風による大災害からの復興をきっかけとして、江戸時代に山陽道の宿場町として栄えた街並みを残す矢掛商店街の復興と町の賑わいの創出を目指して、「矢掛の宿場まつり大行列」が開催された。 江戸時代の参勤交代の様子を再現するために、歴史の先生と相談するなど歴史的背景は守りつつ、行列に華やかさを出すために奥方・姫君を参加させるなど工夫をこらした演出を加えてきた。実行委員会だけでなく、町内の企業や個人からも大行列への参加者を募り、地元にある岡山県立矢掛高等学校も積極的に参画している。さらに、近年ではサンフランシスコ桜まつりでの大行列の披露や町内企業で研修を受けている海外研修生や留学生なども行列に参加するなど、国際交流も積極的に行われている。 40年以上にわたり大行列が継続的に行われ、認知度も上がり来町者数が増加し観光客の誘致に貢献した。また、観光振興に力を入れている矢掛町と協力しPR・開催することで、町全体のイメージアップにも繋がった。</p>	 <p>矢掛の宿場まつり大行列</p>	<p>矢掛町 総務企画課 0866-82-1010</p>
<p>地域づくり表彰審査会特別賞 小岱山薬草の会 (熊本県玉名市)</p>	<p>手付かずの自然が残る玉名市内の小岱山には、多くの薬草が自生することが知られ、伝統的な家庭薬の継承とそれを活用した地域おこしをめざし、崇城大学薬学部と連携した「小岱山薬草の会」が設立された。 自然薬草の知識を蓄積するため、同大学教授から薬草知識の講義や実践を学び、習得した知識を活かして市民に身近な薬草を活用する啓発活動を開始した。 薬草講演会及び薬草講習会を定期的に開催し、公園や学校に薬草花壇の設置及び管理を行い薬草知識を広める活動を進めた。また、薬草の力を十分に発揮し「苦い」イメージを払拭するために、薬草料理の開発、薬草料理教室の開催、薬草料理レシピ公開などを行い、薬草を身近に活用できる方法をPRした。さらに、全国の薬草活用団体とも交流を行い、第1回全国薬草シンポジウムを玉名市で開催した。 さまざまな活動を通じて、料理教室等の参加者は大幅に拡大し交流人口の拡大が見られた。また、全国薬草シンポジウムは他の地域でも継続的に開催されるようになり、全国的な活動の広がりも表れた。</p>	 <p>全国薬草シンポジウム</p>	<p>玉名市 地域振興課 0968-75-1421</p>